
鉾山研究会

ニューズレター No. 79

2010年2月25日

- 1 新年度の総会
 - ① 総会の日程
 - ② 2010年度の活動方針案 村串仁三郎
 - ③ 会計報告案
- 2 「鉾山の映像を観る会」のお知らせ
- 3 海外鉾山文献読書会のご案内
- 4 定例研究会の報告と予告
- 5 第9回伊豆鉾山巡検案内 村田 淳
- 6 釜石通信 小野崎敏
- 7 橋本康夫会員の死を悼む（2） 寺島敏治
- 8 事務局から 川俣修寿

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

メール・アドレス murakushi@par.odn.ne.jp

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究

室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

1 新年度の総会について

① 総会の日程

日時 2010年4月25日、1時—5時

場所 法政大学市ヶ谷キャンパス、80年館7階会議室の予定（変更の場合のみハガキ通知します。）

② 研究報告

1 報告者 金丸哲也 演題 硫黄鉱山について

あと2、3人の報告を受け付けます。

③ 2010年度の活動方針案 村串仁三郎

2009年度の活動報告

前年度とほぼ同様、会誌1回、ニューズレター4回の発行、「鉱山の映像を観る会」3回、定例研究会を3回の開催。その他、伊豆鉱山跡の巡見、台湾鉱山見学ツアーなどを行った。

2010年度の活動方針案

昨年とほぼ同じような活動を予定。

新しい活動として、橋本会員が逝去されたため、橋本会員の主催していた「鉱山の映像を観る会」を、新たに丸山もとこ会員を中心に継続して活動をおこなう。また村田淳会員の主催する伊豆鉱山巡見も今後もおこなう予定。

会長に就任して4年が経過しました。正直いって、1、2年で研究会は潰れるだろうと予測して、会長職を引き受けたのですが、夕張問題があり、最近鉱山研究（とくに炭鉱研究）が若い人たちでおこなわれ始めているようなので、この研究会を維持、運営していく意義があるように思えてきています。

まだ74歳の若輩なので、もう少し鉱山研究会のために働こうと思っています。

なお、今年度は、7月頃に久しぶりに、研究会主催の釜石鉱山跡見学会を、小野崎敏（元釜石鉱山社長）会員の好意で開催予定です。とくにこの件には、参加者の事前確定が望まれるので、参加希望者は、必ずしかるべき関係者に連絡していただきたい。日程は、総会で確定します。

また、本年初の定例研究会は、5月6日（土）6時から、場所未定ですが、北海道から山田大隆会員が上京して、東ドイツの炭鉱産業遺蹟の話とその後の夕張についての報告を予定しています。

④ 財政について

2009年度決算報告、2010年度会計案の会計報告については、総会で直接報告をうけて、その後のニューズレターで報告します。

ただし財政について一言。

かつて会費の繰越金が異常に多かったため、一昨年度を会費ゼロにし、当初、鉾山研究会の活動の予想がつかなかったこともあって、昨年度から3000円の会費としてきました。しかし予想に反して、研究会の運営が順調にすすみ、会誌の発行も継続して、内容も充実して、出費が嵩んでいます。

前年度の会誌の発行費予算が、25万でしたが、会費収入が減り、前年度並の出費（40万円程度）となれば、相当の赤字がでそうです。

赤字を出した責任を感じますが、しかしそれはある程度予想していたことで、むしろ、果して鉾山研究会を維持できるかということが心配でした。予想に反して鉾山研究会が健全に維持されていることをむしろ喜ばしいと考えています。

そこで赤字の補填について、提案します。如何にも3000円会費では、会誌発行が無理なので、来年度から4000円会費とし、さらに赤字部分は、年度末の赤字額を見た上で、かつて友子が処理していた方法にならって、新年度に赤字を補填するための寄付を募ることにしたいと考えています。

以上、総会までに、ご一考下さい、とくにご意見があれば、お寄せ下さい。

2 「第26回鉾山の映像を観る会」のお知らせ

丸山ともこ

例年、新春第一回は鉾山をテーマとする映画を鑑賞しておりますので、今年も映画から始めたいと思います。今回上映するのは、複数の会員からリクエストがありました「フラガール」です。常磐炭田の町おこし事業として誕生した常磐ハワイアンセンター（現スパリゾートハワイアンズ、1966年1月営業開始）を描いた2006年の大ヒット作です。併せて関連映像も上映いたします。「フラガール」をすでにご覧になった方も多いと思いますが、再度鑑賞する価値のある作品です。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】2010年3月27日（土） 開場 13:00 上映開始 13:30 解散 17:00

【会場】渋谷勤労福祉会館（渋谷区神南 1-19-8）2F 第4洋室

【会費】無料

【上映作品】李相日監督・松雪泰子主演「フラガール」（120分、2006年）ほか

※解散後、懇親会を予定しておりますので、お時間のある方はご参加ください。

※ご意見ご要望のある方は、〈jMrs.eizonokai@gmail.com〉までご連絡ください。

3 海外鉱山文献読書会のご案内

丸山ともこ

近年、国際会議に出席したり、海外の鉱山を見学する機会が増えています。そこで、英語で著された鉱山文献を読み解く勉強会を月一回行っています。文献を通して海外の鉱山史と鉱山事情を学ぶほか、英語の専門用語に慣れることを目的としています。この勉強は海外で活動するうえで欠かせません。英語が苦手という方こそ、奮ってご参加ください。

【テキスト】 Spence, Clark C. *Mining Engineers and the American West: The Lace-Boot Brigade, 1849-1933*. 1970. Reprint. Moscow, Idaho: University of Idaho Press, 1993. 次回は p.193 から

【次回】 2010年2月24日(水) 15:00~17:00

【会場】 GIO オーガニックカフェ (港区港南 1-9-36 アレア品川 2F)

【会費】 なし ただしテキストは自分で用意してください

※参加希望者は事前に〈jMrs.dokushokai@gmail.com〉までご連絡ください。

※3月以降の日程については、鉱山研究会ウェブサイトをご参照ください。

4 定例研究会の報告と予告

定例研究会の報告

1月23日開かれた研究会は、20人ほど参会されて、盛況のうちに開かれた。村田会員の台湾鉱山ツアーの報告、菊池会員のモリブデン鉱山の話、中山会員の日本青銅器史に関する報告で、いずれも大変興味いものであった。

中山氏の報告は、「日本列島にも青銅器時代はあった」という論文に基づくもので、これは、『まんじ110号記念』（栄光出版社、2008年）に収録されています。そのほか中山氏は、『まんじ』という同人誌（季刊）に、「還暦からの考古学」「鏡」という二つの論文を連載中です。また「日本考古学の光と影」は、史遊会編『歴史に魅せられて』（彩流社、2005年）に所収。

菊池会員の「モリブデン鉱山の話」は、来年度の「会誌」に発表されることが期待されます。

定例研究会の予告

2010年5月6日(土) 6時—8時、場所未定(会誌発送時には正確な場所を通知します)

報告者 山田大隆

テーマ 東ドイツの炭鉱産業遺蹟の報告とその後の夕張について

報告の要点は、すでに会誌に発表されていますが、書けなかった問題も多く残っているのと、多くの現地写真などみせてもらえるようです。またその後の夕張の状況についても話していただけるとのこと。

皆さん方の参加を期待しています。

5 第9回伊豆鉱山(下田、河津方面)巡検案内 村田淳

前回の伊豆市、狩野川流域の巡検につづき、今回は下田、河津方面にある旧鉱山を見学します。

水口さんの調べでは、伊豆半島には140の鉱山がありました。まさに坑だらけ、鉱山半島ともいえます。なかには中世に起源を求めることができるものもあります。鉱山の原初の姿とその成り立ちの過程をしのべます。後に大鉱山に発展したものもありますし、鉱山の規模は小さいけれども、いわゆる戦前、戦後を通じて日本の鉱山繁栄の時期にあった中小鉱山のありかたを見ることができるでしょう。

今回も水口為和さんに準備していただくことになっています。そして地元の方々にもお世話になります。

■日程：2010年3月13日(土)から14日(日) (1泊2日)

■集合時刻と場所：3月13日(土) 12時00分 伊豆急行下田駅前広場

(昼食は済ませておくこと、現地までの交通は、車で参加するものがあり参加者で相談)

■見学場所：赤根島金山、万蔵山鉱山、白浜鉱山、大松山鉱山、谷津鉱山、沢田鉱山など(順序は未定。時間の余裕がない場合は見学できない鉱山があります)

■服装・装備：服装は丈夫で汚れてもいい上着とズボン。足元のしっかりした靴(長靴があればよい)、ヘッドランプ、ヘルメット、ハンマー(あればよい)。

■宿泊：河津の民宿(予定)

■参加費：15,000円程度の予定(集合場所までの交通費と昼食代は含まず。)

■申込締切り：2010年3月1日（月）

■申込み、問合せ：参加の可能性のあるかたは一応その旨申し込んでください。

村田淳 電話・FAX:(045)401-5259 221-0011 横浜市神奈川区神之木台 41-22

6 釜石通信

小野崎敏

初夏にでも釜石鉱山遺蹟見学が予定されている折、小野崎会員から釜石についての情報が寄せられましたのでご参照下さい。（編集子）

○旧釜石鉱山事務所内覧会開催 安政4年、大島高任らが、釜石、大橋の地で鉄鉱石を採掘し、日本ではじめて洋式高炉で鉄精練に成功した。

その出鉄の日である12月1日が、日本の鉄の記念日となっている。その地にあった日鉄鉱業（株）釜石鉱業所建屋は、昭和54年に釜石鉱業（株）に移管されたが、その後、鉱山事務所が新築されたので空家となっていた。

その建屋は昭和27年に建設されたものであり、閉山休山の続く日本の鉱業界において現存する数少ない鉱山事務所の一つである。

昨年、この鉱山事務所が日鉄鉱業（株）より釜石市に寄贈されて、釜石市の産業遺産として保存されることとなった。昨年、市教育委員会が事務所内部や展示室の様様替えを行って、その事務所を一般公開することになった。

展示概要・資料等は以下の如くである。

1、期間・平成21年10月13日～12月7日

2、形態・自由見学・無料。（要望があれば解説）

3、付記・事務所1階は昭和30年代の配置を基本とし、2階は資料室として鉱山沿革、坑内外道具類・鉱石・製鉄関連資料・写真・絵画・文献等を展示してある。

今後の公開日程は未定であるが、見学希望の場合は、市教育委員会生涯学習スポーツ課（TEL・0193-22-8835）に問い合わせを欲しい。展示資料は約500点あり、図書資料も約1000点である

○近代製鉄発祥150周年記念事業を振り返るパネル展開催

題名 釜石から八幡へ・近代製鉄の生い立ち

安政4年（1857）の高炉による近代製鉄発祥から150周年を経て、日本鉄鋼連盟、新日本製鉄（株）等が主催して一昨年から記念事業が行われている。

昨年3月から7月まで、東京の新日本製鉄（株）本社で、その行事にあわせてパネル展「釜石から八幡へ」が開催され好評を博したのをうけて、釜石商工

会議所・鉄のふるさと創造事業研究委員会が主催し、釜石市大町の「釜石まちかど情報館ぴぽぽ」において釜石市で開催することとなった。

1、期間・平成21年9月10日～10月30日

パネル展の参考資料や、昨年釜石市教育委員会で製作発行した「橋野高炉跡範囲内容確認調査概報」等の資料および釜石鉱山資料室関連の「釜石鉱山産業遺産調査報告書」は、小野崎の手元にあるので活用して欲しい。

なお小野崎は昨年釜石市長より「釜石ふるさと大使」を委嘱された。より一層釜石支援をつとめることとなった。

7 橋本康夫会員の死を悼む（2）

橋本ファミリーのこと二題

寺島敏治

遅れて参加の橋本夫人のこと。

橋本康夫氏への思い出は私もつきません。金丸氏へのファックスのあと、本棚奥の厚いファイルで確認した。最近、この種の自信はなくなる。中の『ニューズレター』43号の発行は、'02年9月10日である。このファイルには釧路から南千歳までの切符も残っていた。当時、私はまだ釧路にいた。空港2階で会の参加者とお会いした記憶がある。

2泊3日の北海道空知地域合宿初日の橋本さん夫妻に関することを書く。

当日は千歳空港域のレンタル店で大型ワゴン車で出発。

この日は橋本さんが運転した。私は車の前方に座った。橋本さんは、道路事情に実にくわしかった。道内を何度もカメラ取材をして来た結果だらうと想っていた。運転席のとなりが村田事務局長で二人でいろいろ話し合っていた。

空知の各地をまわり、一行は夕張石炭博物館（私は何度目かの訪問）から夕闇せまる本日の宿舎である廃校利用の簡易ホテルに到着。

玄関わきの校舎ロビー利用か。

食堂で夕食後、橋本さんと同部屋となった。他にも同室者はいたが、そこは教室フローリングの上にタタミを敷いたものだった。各自で自由に大柵（押入れ風に改造）からフトンを出して敷く仕組みとなっていた。

橋本さんは一人前の夕食膳を大切そうにかかえて来て、別の柵の上に置いた。落ち着くと部屋のスチームがやけに熱いのに気付いた。

彼は「うちのヤツおそい。なにかあったのかな」とひとり言。それを聞くとはなしに聞いて、私は「奥さんも来るのと」たずねた。

これで奥さんは学校かの用事でこの合宿調査の参加のため、東京発飛行機を

一便遅らせて、電車で夕張に来る手はずであることを知った。

「それにしてもおそい」と心配顔の橋本さん。私は「スチームが熱すぎるので、奥さんの夕食膳が乾き過ぎるのでは、膳に紙をかけて棚の下の方へ掛いたら」とすすめ「あっそうですね」とこれに従った。

やや時間があって、ようやく元気な女の人の声が廊下のむこうから聞こえて来た。誰かと話しながら近づいて来た。

部屋でおくさんから遅れた事の一部始終をうかがった。飛行機の到着も遅れたらしかった。とにかく夕張行きの電車は出発したあとであった。ハイヤーを手配するのに時間もかかり、電車を追うことになる。暗い夜道である。ある駅近くで電車の灯りは見えたが、道路がストレートについていない。もうちょっとの所で電車は出てしまう。運転手さんも懸命にハンドルを握り、夜路を追った。

やっとの思いで乗れたのは相当夕張寄りの駅だったとのこと。奥さんはこのことを手振り身振りで愉快地話してくれた。「この沿線にはほんとに途中で街がない。真暗な所だね。車の明かりだけね。対向車もなかったよ」。橋本さんはところどころ頷きながら微笑を浮かべていた。その横顔には安堵の表情がにじんでいた。

「今日は飛行機に乗った時間とハイヤーでの時間と同じくらいだったかな」と奥さんが話しているところに別室の久保さんが奥さんを迎えに来た。橋本さんは棚から膳を出して「ところで夕食は」との橋本さんの問いに「空港で弁当を買って途中で済ませた、ごめんね」と答えたようだった。

奥さんが立ち去ったあと、私はこの橋本さん夫妻になにか、ほのぼのとしたものを感じていた。少なくとも奥さんは鉾山の記録写真を撮り続ける橋本さんの仕事を関心を持って支援し続けて来た方であることは理解できた。そうではないと一般には夫の此の巡見合宿について来るはずがないと思うからである。

私は同室の市原先生をさそい特有の深さのある教室風呂へむかった。

空知炭田をめぐるこの巡見では学ぶことが多かった。三笠での閉山後、幌内の明治期からの諸台帳保管に短期間で宿泊しながら学生供ども格闘した当時、北海学園大にいた市原博先生の話。三笠市でのその台帳群の一部を施設保管している現状を見聞きしたこと。美唄での資料施設でのこと。赤平市での炭鉾主要施設の保管説明と現場でのことなどなど沢山である。

もうひとつ大きなことがある。それは日本列島の鉾山記録写真を撮り歩く橋本さんの仕事を支援し続ける姿の一端にふれたことである。“同好の士”という表現はあたらぬ。夫婦でひとつの仕事にたちむかう姿に感銘した、ということであろうか。後日、橋本さんから礼状と供に幾点かの写真が送られて来た。

赤平国際鉱山歴史会議でのこと。

私たち釧路関係者のポスターセッション段取りの遅れに加えて、会議初日の早朝、道東一帯をおそった十勝沖地震（震度、訂正で6度強）に見舞われた。家財道具の被害を越えて、釧路発の特急が不通となる。跡かたづけを家内にまかせ幸い大幅な遅れであったが、帯広駅からの臨時特急？に乗った。会場によやく着いたのは初日の暗くなりかけた夕方だった。

会場の2階の橋本さんのポスターセッションは万全の準備がなされていた。委員の市原先生方は明日の準備に飛びまわっていた。

間もなく夜のレセプションが始まった。この会場での少量のウイスキーに、早朝からのてんやわんやの走りまわりすっかり酔ってしまった。この折り橋本さんのカメラで会員のみなさんと橋本さんの娘さんをまじえた写真で私だけ既に目がすわっていた。

2日目の会議スケジュールの合間、メイン会場で昨夜の橋本さんの娘さんが販売店の一角で店番をしていた。展示販売品の中から私は実費頒布の「地番入足尾町商業案内便覧図」大正5年3月刊の復刻図を求めた。

娘さんと二、三話しをかわしているうちに、「うちのお父さんたら自分の好きなことばかりに飛びまわっていて、家のことをさっぱりかまってくれない。」父への不満の声がもれた。日頃、長女としてか母を思う気づかいからは、当然のことだろう。娘さんの一言は私の家内の言葉であった。「そうだろうなあー」と思いつつも買ったばかりの復刻図を広げて一言。

「なぜお父さんたちがこの大図を復刻したと思う？」、図の裏側をさして「このここに大きく小野崎写真館の広告があるよ。有名な足尾銅山の多様な記録写真乾板を保存してきた写真館だよ。」「ほら右側に足尾銅山御用、正式には足尾銅山御用達といって、会社のお抱え写真師のこと。館の人は自由に足尾銅山の各市街、施設を写真におさめる事の出来た方なのだよ」。乾板のことは知っているという。若いのにさすが橋本さんの娘さんだなあーと思った。「写真館の所在は赤倉とあるねー」「表の図で赤倉集落をごらん。」むこう側から身を乗り出して来た。

「私は残念ながら足尾には一度も行ったことはないよ。その私でもこれ、写真館のある通り近くには地図の発行が大正5年3月だから多分、いや大正4年現在のものと見るべきだろうね、郵便局、消防、呉服店、とうふ屋さんのほか道路2本裏には『社宅』ってね。銅山の職員住宅が並んでいるよ。小野崎写真館の通り近くには宇都宮銀行支店もあったところだよ。これこれ。鉱毒で有名になった本工場（？）からの根源？？かな。この支流をまじえて渡良瀬川がこう流れて、下流の谷中などへ大きな公害をもたらしたのさ。」娘さんの顔色が変

わっているのに気がついた。

「赤倉も足尾銅山の主要な集落のひとつさ」。「お父さんね。何度も足尾へ来てこの大図を入手したと思うよ。図をひとつひとつ見て行くだけでも、多分大正4年現在だと思うが、当時の足尾銅山の全体的、地域的な情報が一見でわかるすぐれものだよ。地図にある写真は多分全部小野崎写真館からのもので、他に沢山あったはずだよ。だからお父さんたちはこれを当時の紙質に近いもので復刻したんだよ。」「これは広く買いやすい実費頒布したと思うよ。」

娘さんの目は、父の仕事への尊敬の目にかわったように私には見えた。「すごく大切な仕事なんだよ。」「あなた達には苦勞をかけているかも知れないけれどね」、娘さんの目は満足の色をしていた。

私は時間でそこから立ち去った。

この会議に台湾から発表で参加していた近代史研究者の陳慈宝氏に時間をとってもらい、当時の台湾石炭業と日本の資本展開のことでお話をうかがうことが出来た。収穫は大きく、覚醒された部分も相当ある。このことはまだ『金属鉍山研究』や『鉍山研究』では一部しか発表していない。

この会議でも短時間ではあったが、橋本ファミリーに接しとことが印象に残る。自分の反省にもなった。

8 事務局から

川俣修寿

2006年の総会後に発足した村串体制の事務局から感想を含めて会務の現状を報告したい。新体制の課題は、まずたま一方の会費を会活動にどう生かしていくかでした。会費の残高が増えた最大の理由は、雑誌の発行が滞っていたからです。

そこで、村串新会長はこれを正常に戻すため年2回発行の方針を打ち出し、会員諸氏に投稿を呼びかけたところ、当初の予想に反してたくさんの論文が集まり年2回発行は予定通り進みました。

また、会の名称を「金属鉍山研究会」から「鉍山研究会」に変更し、雑誌名も「鉍山研究」とし金属以外にも対象を拡大したためか、雑誌投稿は途切れることなく続き、村串編集長の絶大なるエネルギーで今年3月には87号を発行するに至りました。

不良在庫が積み上がっていた雑誌のバックナンバーは、菅井会員と國學院大學の協力で菅井研究室に保管していました。これを会員に無償で配付する提案を行い、希望者には希望部数をお分けし残部を処分することで合意が得られ、

実行に移しました。これで菅井さんに対する迷惑の多くは解消できました。

昨年从那それまで持元さんのご厚意で運営していたホームページも、山本さんのご尽力で正式に会として運営することになりました。しかし、約1年経過して活用状況を見ると映像の会と英文講読以外はほとんど記事掲載、情報掲載が無く、むしろ個人のメーリングリストを使った会員相互の情報交換の方が活発のように見えます。

事務局は少人数として、必要最低限度の仕事に絞りコンパクトに運営するという当初の目的は、会員の協力で概ね適正に進められていると思います。会員有志の尽力で伊豆巡検、映像の会、英文講読も順調に継続されているし、例会も多数の出席者が集まり活発な議論が戦わされています。

当初事務局が考えていた2010年の精算総会で活動を停止し、解散するもくろみは嬉しくも外れました。しかし、一昨年は会費の徴収を行わず昨年は年間3000円としたために、今度は予算不足に陥ると言う誤算も生じました。雑誌を継続的に発行するには会費の見直しも必要になります。

当会は、「下克上」と評されるほど活発な意見が交わされてきましたが、最近若い会員の発言が少ないように感じます。年齢、経歴に関係なくまさに「下克上」のように率直、忌憚のない発言で、会員諸氏の研究成果を更に練り上げていきたと望みます。

事務局と言うより私個人の希望として今後力を入れて行きたいことは、地道に研究を進めながらそれらの仕事をまとめ切れていない会員に多少なりとも協力して、貴重な研究成果をまとめ出版するなりして世に出していくお手伝いをしたいと思います。

特に、地方で人知れず良い仕事をしながら孤立しているために埋没しがちな会員の仕事を積極的に紹介したいと思います。また、そういう会員に発表の機会を提供していきたいと考えていますが、地方で研究会を開くはほど事務局に力が無い上、会財政逼迫のおり東京の例会に出席するための交通費の補助ができないのは残念です。

若い会員には、個性的な研究成果をまとめて雑誌に積極的に投稿して欲しいと思います。

「鉾山研究」は、国会図書館の記事データベース採録雑誌ですから、掲載されれば必ず国会図書館のデータベースで全国どこからでも検索できるようになります。従って、投稿から新しい研究者との繋がりも生まれる可能性もあります。

データベースに採録されるのに「査読」がほとんどない雑誌は余りありません。投稿すればほとんど掲載されるという嘘のような雑誌だと改めてお知らせ

します。

もう一つ、会活動と言えるか判りませんが例会等の終了後の「懇親会」をリードしていた橋本会員がいなくなり、今後誰がこのイベントの音頭を取るのかちょっと不安な点もあります。中には、こっちがメインの会員もいるようなので心配することもないとも考えますが。

事務局としては、合宿その他新たな研究活動の計画立案、遂行する人手がありません。従って会員諸氏の提案、招致をお待ちしています。会員の皆さんの提案を受け入れながら、一層活発な研究会としていきたいと考えています。

10年度は、釜石鉦山の見学会を予定していますが、細かい事務の手伝いを会員の自主的な申し出で処理したいと考えています。また、ホームページの活用を活発化するために運営作業を中心的に担ってくれる会員を募集しています。あるいは、ホームページの運営自体を見直すことも必要かも知れません。この件についても会員の意見を尊重しながら対処していきたいと思えます。

会員名簿の配付については、長年中止のままですが、個人情報保護との兼ね合いで結論が出ていません。昨年のアンケートでも住所のみ記入、住所と電話番号、プラスメールアドレスと多様な反応でした。

私個人としては、多少のリスクがあってもメールアドレスの公表をお願いしたいと思います。ネットワーク社会の進展を見れば、メールアドレスの公表は必然のように思います。

メールなら、電話と異なり直接対応する必要もなく空き時間に読んで返信も可能で、それでいて迅速ですから。事務局としては、メールで全てを済ますつもりはなく、従来通りニュースの発行とケースによっては葉書通信を継続していきます。

この問題に関しても、会員の皆さんの意向に従って決めたいと考えています。ご意見をお寄せ下さい。

基本的に当会は、研究をメインに据えながら鉦山にまつわる周辺の諸問題、例えば文化、表現等も積極的に取り上げています。遠田さんのギター演奏もその一環です。スライドショーによる報告も可能です。これまで報告をしなかった会員も気軽に報告をして欲しいと思えます。

以上簡単に報告をしましたが、希望、要望等会運営に対する提案をお待ちしています。2010年2月記。